



スタートアップ・エコシステム

～ Beyond Limits. Unlock Our Potential. ～

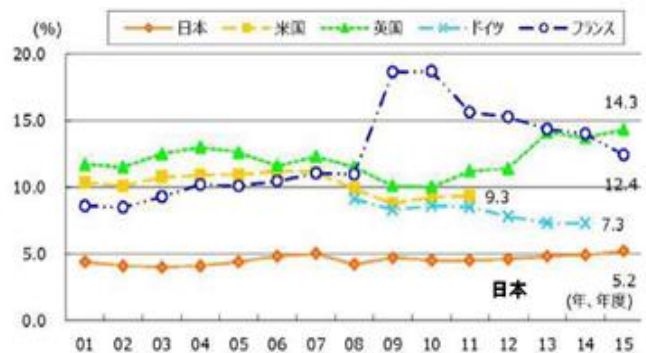
アメリカ 15.6 人, イスラエル 12.7 人, インド 11.4 人, UAE 10.7 人, 中国 10.4 人。
これは 64 歳までの成人人口 100 人に対する「起業活動を行っている人」「起業後 3 年半未満の人」の人数で、「起業家精神」の指標とされています。(出典: Global Entrepreneurial Monitor 2019)

これらの国々で、旺盛な起業を支援しているのが、「スタートアップ・エコシステム」。

「スタートアップ」とは、世の中を変えるようなイノベーションを引き起こす、ベンチャー企業の中でも特に短期間で急成長し、IPO（株式上場）や M&A（会社売却）を目指す起業家のこと。また、「エコシステム」は「生態系」。「スタートアップ・エコシステム」は、「スタートアップが次々と生み出されるような仕組み」のことなのです。

例えばアメリカでは、スタートアップ・エコシステムの拠点都市として、シリコンバレーが代表的です。

【開業率の国際比較】



(出典: 内閣府, 文部科学省, 経済産業省)

■「周回遅れ」の日本

今日、我が国のスタートアップは 1 万超にものぼるなど、第 4 次ベンチャーブームとも言われていますが、前述の指標では 5.3 人。

また、ベンチャー企業への投資額も少なく、ユニコーン企業（創業 10 年未満で時価総額 10 億ドルを超える企業）の数でも、アメリカや中国には及びません。世界の多くの都市でエコシステムの拠点形成が進む一方、日本は「周回遅れ」と言われている状況なのです。

【VC 等によるベンチャー投資額】

アメリカ	9 兆 5,336 億円
中国	3 兆 3,630 億円
日本	1,953 億円

(平成 29 年 出典: 内閣府)

■「スタートアップ・エコシステム」の形成 京都の可能性

リチウムイオン電池の開発により、ノーベル化学賞に選ばれた吉野 彰名誉フェロー（京都大学ご出身）は、シリコンバレーのような新しい産業や企業が日本から生まれることが夢とのこと。

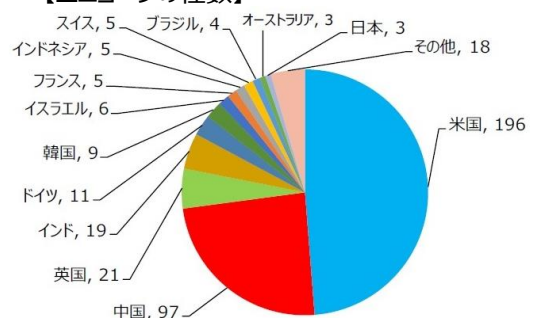
そのための条件を京都は満たしており、ぜひ京都から、世界を驚かせるような研究や企業、産業が生まれてほしいと仰っています。

京都は、伝統と革新により、異なる文化と調和・融合しつつ、1200 年の長きにわたり発展してきた世界に類を見ないイノベーションのまち。

現在も、優秀な研究者を輩出する数多くの大学による知の集積や、数々のベンチャーが世界的企業に成長した風土があります。美しい自然や景観、宗教、文化・芸術、市民生活の中に浸透している暮らしの美学、さらには生き方の哲学……。他の都市にはない、京都独自の文化的な魅力に惹かれ、近年、世界的企業による研究施設や、アクセラレーターの市内進出が相次ぐなど、世界からの注目も高まっています。

京都は、こうした強みを活かし、行政、産業界、大学、金融機関、そして産業支援機関など、オール京都体制で「スタートアップ・エコシステム拠点都市」を目指していきます。

【ユニコーンの社数】



(令和元年 9 月 20 日時点 出典: CB インサイツ)